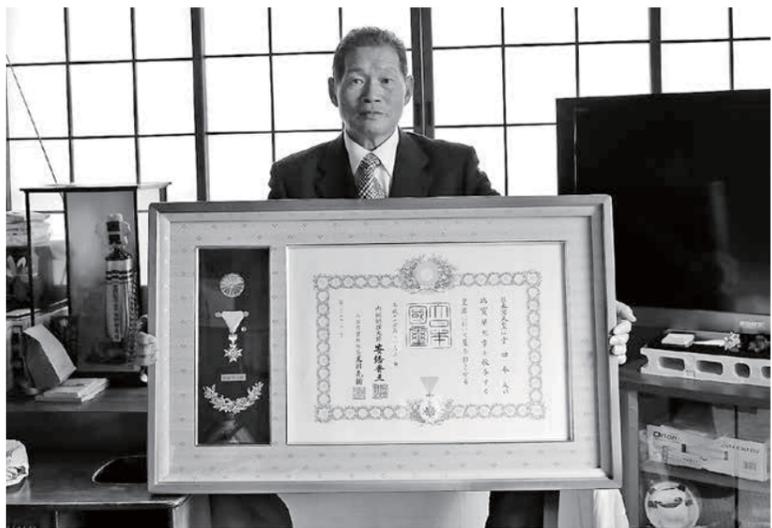


秋の叙勲

42年にわたり消防団員として活躍

元国見町消防団長の吉田春夫さん（第4）が平



瑞宝単光章
元国見町消防団長
吉田春夫さん（第4）

成26年秋の叙勲の栄に浴され、11月7日に東京都で行われた叙勲伝達式にご夫婦で出席されました。吉田さんは昭和46年4

月に国見町消防団に入団し（第3分団第1部）、平成25年3月に退団されるまで42年間にわたり消防団員として活躍されました。

吉田さんは「家族の理解や協力、また周りの団員の支えがあり42年間消防団員として務めることができました」と話されました。特に記憶に残っていることをお尋ねしたところ「東日本大震災では不眠不休の活動をしたが、町内で犠牲者が出なかったことが不幸中の幸いでした」と話されました。

38年間安定的な地域輸送に尽力

元藤田駅助役の安藤政治さんが、11月13日

に東京で行われた叙勲伝達式に長男の人司さんと出席されました。安藤さんは、昭和18年に国鉄に入り、地元藤田駅をかきりに、福島車掌区、会津長野駅、伊達駅などで38年間勤務し、その後後輩の指導として瀬ノ上の

操作場主任として勤務されました。安藤さんは「戦中戦後の混乱期に敗戦からの復興は鉄道の復興からという意気で職場一丸となり頑張った。また、38年間無事故無違反で線路を守り抜いたという喜びと自負があります。38年間健康で最後まで仕事ができた

のも、良き先輩、優秀な後輩、単身赴任中も子どもを一人で育ててきた、亡き妻のおかげだと思っています」と話されました。今回の叙勲については、「今まで真面目に頑張ってきたから、叙勲に繋がったのでは」と静かに話されていました。



瑞宝単光章
元国鉄藤田駅助役
安藤政治さん（山崎館）

あんぽ柿の復興に向けて

あんぽ柿づくり体験・リンゴ狩り
&あんぽ柿産地応援事業

今年、国見町のあんぽ柿は町全域で加工再開ができませんでした。

国見町では、11月22日から23日にかけて、東京都品川区の「品川女性起業家交流会」と「ふくしま応援団『MOVE』」の2つを受け入れ、あんぽ柿への風評被害対策事業を展開しました。



費者と生産農家が、それぞれの思いを共有することを目的とした事業です。

この体験ツアーは、「国見町女性100人応援団ツアー」や「国見町女性応援団」のアンケートで最も要望が多かった「あんぽ柿づくり体験」を具体化した事業です。

22日昼過ぎに到着した一行33人は、太田久雄町長の歓迎を受けた後、さっそくあんぽ柿生産農家へ。今回の事業に協力した農家は4軒。参加者は農家の手ほどきを受けながら、皮むきからくん蒸、柿干場で柿を干すまでの一連の作業を体験するとともに、作業の合間に農家との交流を行いました。そして23日は、真っ赤に色づいたリンゴの収穫体験。たわわに実ったリンゴ

参加者からは「あんぽ柿のくん蒸の間に、とても温かいもてなしを受けた。大変な目にあっている農家なのに、どうしてこんなに優しいのかと胸が一杯になった」「震災後に農業を継ぐと決心した若者たちがいることを知って、彼らを中心に応援しようと思った。帰ったらすぐに口コミで国見町のことを友人たちに伝える」などの声が寄せられています。

「あんぽ柿復興支援・ふくしま応援バスツアー」

23日に行われたもう一つの事業も、あんぽ柿生産現場を実際に見ながら、農家と交流することで相互理解を深め、風評被害を払しょくすることが目的の事業です。

関東圏の消費者や家族35人の一行は、23日午前にあんぽ柿生産農家を訪れ、あんぽ柿づくりの工程や出荷までに農家が取り組むきめ細かな作業の説明を聞きました。

等活性化センターで太田久雄町長の歓迎を受けた後、あんぽ部会・大枝地区のお母さんたちの手づくりのおもてなしを受けました。参加者からは「応援しようと思っただけなのに、国見町のお母さんたちの元氣さ、明るさに、こちらが励まされてしまった」「農家の話を聞いていたら、田舎の両親を思い出した。国見を応援しようと思っただけなのに、おいしい食べ物がいっぱいある国見町は素敵。町の人たちもその良さを再確認すべき」との声も聞かれました。

